



## 国勢調査のはじまり



展示期間 平成 17 年 10 月 4 日(火)～12 月 27 日(火)  
※図書館休館日を除く

今年 10 月 1 日現在で、全国一斉に平成 17 年国勢調査が実施されます。  
初めて国勢調査が行われたのは、大正 9(1920)年のこと。当時は「我が国民文化の程度を試す」  
初めての調査と、大きな話題になったようです。  
大正 9 年から昭和の初めごろの国勢調査に関する資料を紹介いたします。



### 国勢調査の目的

国勢調査は、課税や犯罪捜査など、特定の目的のために行われるものではなく、「社会の実況」を知るために、国内に住んでいる全ての人を対象に人口や世帯の実態など、「全国の情勢」を明らかにする、国の最も基本的な統計調査です。

国勢調査から得られた各種統計は、施政の基礎資料として用いられることはもとより、学術研究や経済活動など幅広い分野で利用されています。

調査の対象者には申告の義務があり、昭和 5 年当時で「申告を拒み、又は故意に不実の申告を為したる者」は金 30 円以下の罰金に処すなど、罰則が定められています。

第 1 回(大正 9 年)	第 2 回(大正 14 年)	第 3 回(昭和 5 年)
氏名	氏名	氏名
住所	住所	住所
世帯の種類	世帯の種類	世帯の種類
世帯主との続柄	—	世帯における地位
男女の別	男女の別	男女の別
出生の年月日	出生の年月	出生の年月日
配偶の関係	配偶の関係	配偶の関係
民籍又は国籍	—	民籍又は国籍
出生地	—	出生地
本業及び本業上の地位	—	本業及び本業上の地位
		従業の場所
副業及び副業上の地位	—	副業及び副業上の地位



### 第 1 回から第 3 回までの調査事項の比較

調査事項は、その時々が必要に応じて決められます。第 1 回目の調査では、氏名・世帯における地位・性別・出生年月日・配偶の関係・職業及び職業上の地位・出生地・民籍又は国籍別が調べられました。

## 第1回国勢調査の実施

明治29(1896)年、国際統計協会で1900年世界人口センサスの施行が決議されたのを機に、わが国でも明治35年、「国勢調査二関スル法律」が制定され、明治38年に第1回国勢調査が行われることになりました。日露戦争の勃発、第一次世界大戦への参戦と相次ぐ戦争の影響で延期され、以後、調査の実施を要望する建議が繰り返されましたが、なかなか実現しませんでした。大正7(1918)年の帝国議会で、大正9年に第1回国勢調査を行うことがようやく確定し、臨時国勢調査局を設置するなど、実施に向けての体制が整えられました。

それだけに大正9年10月1日に行われた第1回国勢調査は、「我が国民文化の程度を試す」初めての調査とたいへんな意気込みで臨まれ、国民には「世界五大国の一として、外国に劣らぬ立派な成績を挙げる」ため、「挙国一致の誠意ある協力」が求められました。

各地では、調査の趣旨と重要性をより広く伝えるため、宣伝ポスターや絵葉書が作られ、講演会が開催されました。また、第1回国勢調査の実施を記念して記念切手が発行されたり、道路や新しく架けられた橋に国勢調査にちなんだ名前がつけられたりと、まさに「国を挙げての一大行事」となったようです。



国勢調査宣伝絵葉書(大正9年)

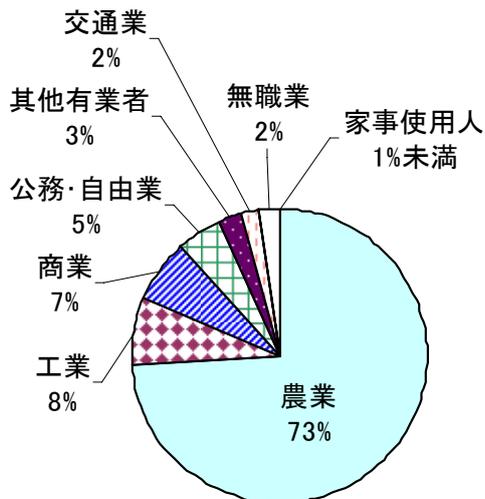


第1回国勢調査員任命証  
(大正9年、個人蔵)

国勢調査員は、内閣から任命される臨時国家公務員です。職務上知りえたことは、調査後も秘密を守る義務が課されています。

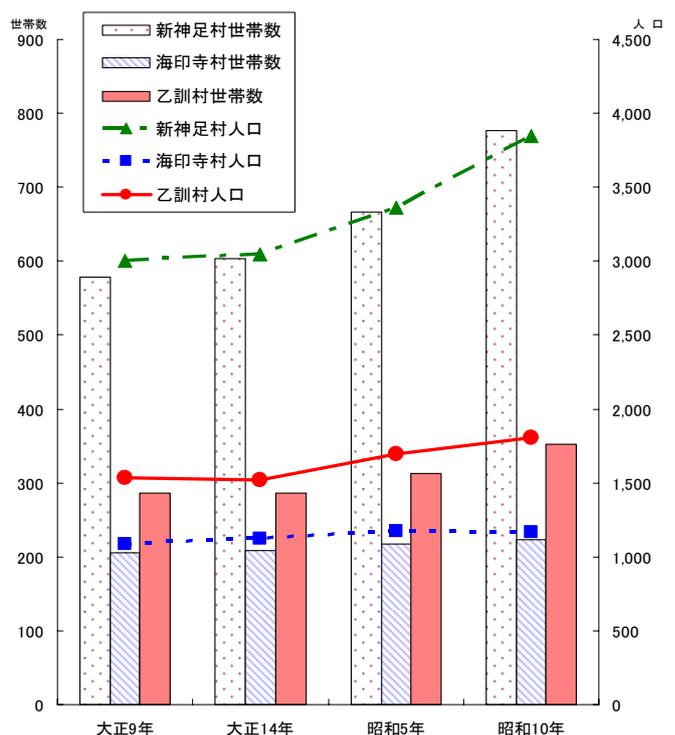
## 大正9年当時の乙訓

京都府が発行した『京都府国勢調査結果概要』をもとに、大正9年当時の市域の人口や産業をグラフにまとめてみました。



## 三ヶ村職業別人口比率 (大正9年)

7割以上の方が農業で生計を立てていました。当時の長岡京市は、明治22(1889)年に江戸時代の14の村々が合併してできた「新神足村」「海印寺村」「乙訓村」の3ヶ村となっていました。



三ヶ村の人口と世帯数の変化